2014 年 2 月 13 日

第５回知の市場年次大会

お茶の水女子大学　ライフワールド・ウオッチセンター
増田研究室

学生実行委員　武井友希

1．理念と運営

知の市場の連携機関でありかつ開講機関であるお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は知の市場の創始者として、知の市場の理念と運営の基本方針を共有し、受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などと協働しながら活動を展開している。そして、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、充分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学･大学院に準拠した厳しい成績評価という知の市場が掲げる 4 つの教育の基本方針の下で活動している。

また、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結しさらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指す知の市場の目標を重視している。さらに、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支えていくことによって教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めて、津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって進んでいく道を切り開こうとする知の市場の挑戦を高く評価している。

こうした基本認識に立ちつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として孵化（インキュベーション）機能を果たすことを目標としている。具体的には、新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築などによる新たな基盤の構築といった孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たすことを目指している。

2．2013 年度の実績

2.1　開講科目と受講実績

2013 年度は共催講座として 8 科目を開講したが、このうち 6 科目は新規開講科目であった。これらの新規開講科目はサイエンスコミュニケーションに係る事柄、サウジアラビアに係る事柄、化粧品に係る事柄、現代環境法に係る事柄、韓国に係る事柄、規範科学に係る事柄を課題としており、知の市場の展開を新たな分野に広げるものであった。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、科目の編成及び講師陣の組織化において 2013 年度も新規開拓の孵化機能を果たした。

表 1　2013 年度応募・受講状況一覧

<table>
<tr><th colspan="3">区分</th><th>科目番号</th><th>科目名</th><th>応募者
(人)</th><th>受講者
(人)</th><th>修了者
(人)</th><th>修了率
(%)</th></tr>
<tr><td rowspan="9">共催講座</td><td rowspan="3">前期</td><td>新規</td><td>CT304</td><td>サイエンスコミュニケーション実践論 2</td><td>33</td><td>33</td><td>12</td><td>36</td></tr>
<tr><td>新規</td><td>CT534</td><td>サウジアラビア特論</td><td>10</td><td>10</td><td>4</td><td>40</td></tr>
<tr><td></td><td>CT571</td><td>企業法の基礎</td><td>25</td><td>25</td><td>11</td><td>44</td></tr>
<tr><td rowspan="5">後期</td><td></td><td>CT303</td><td>サイエンスコミュニケーション実践論 1</td><td>13</td><td>13</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>新規</td><td>CT445</td><td>化粧品の科学</td><td>61</td><td>49</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>新規</td><td>CT573</td><td>現代環境法入門</td><td>18</td><td>18</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>新規</td><td>CT721</td><td>韓国学 1</td><td>19</td><td>19</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>新規</td><td>CT135</td><td>規範科学基礎論</td><td>7</td><td>7</td><td>4</td><td>57</td></tr>
<tr><td colspan="4">合計</td><td>186</td><td>174</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">関連講座</td><td>通年</td><td colspan="3">リスク管理(演習) ≪学部≫　(注)</td><td>28</td><td>19</td><td>11</td><td>58</td></tr>
<tr><td>前期</td><td colspan="3">社会技術革新学概論 ≪大学院≫</td><td>30</td><td>30</td><td>18</td><td>60</td></tr>
<tr><td>前期</td><td colspan="3">安全管理学概論 ≪学部≫</td><td>11</td><td>11</td><td>8</td><td>73</td></tr>
<tr><td colspan="4">合計</td><td>69</td><td>60</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">総合計</td><td>255</td><td>234</td><td></td><td></td></tr>
</table>

(注)知の市場の共催講座のうちお茶の水女子大学で開講される CT304、CT534、CT571、CT303、CT445、CT573 のいずれかの科目を大学学部に履修登録して受講した場合、リスク管理(演習)の 2 単位が取得できる。

一方、2013 年度は関連講座としてお茶の水女子大学の学部学生と大学院生に対して、大学・大学院の単位対象科目として 3 科目を開講した。このうち、社会技術革新学概論と安全管理概論は知の市場で得られた知見を活用しながら知の市場における講師が、大学・大学院の正規の授業を行うものであり、社会の現場の視点を学校教育に取り入れる意味があった。

また、お茶の水女子大学の学部学生が共催講座の科目を社会人と共に受講する場合、いずれか一つの科目について履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置づけられるリスク管理(演習)を履修したものとして 2 単位を取得できることとした。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、学校教育と社会人教育との連結を進め、2013 年度も教育における構造改革の孵化機能を果たした。

2013 年度の共催講座と関連講座を合計した全体の受講者は 234 名で、1 科目当たりの受講者は 21 名であり、知の市場全体の 2013 年度前期の 1 科目当たりの受講者 42 名を下

回った。共催講座の受講者の合計は 174 名で 1 科目当りの受講者は 22 名であり、2012 年度の共催講座の 1 科目当たりの受講者 24 名と同水準であったが、関連講座の受講者の合計は 60 名で 1 科目当たりの受講者は 20 名であり、知の市場全体の 2013 年度前期の関連講座の 1 科目当たりの受講者 50 名を下回った。この関連講座における受講者の大幅な減少は、安全管理概論が 2012 年度まで必須科目であったのが 2013 年度から選択科目に位置づけが変更になった結果である。一方、学部の 2 単位を取得すべくリスク管理(演習)として共催講座の科目を履修登録した学生は、2012 年度の 8 名から 2013 年度の 19 名に増加した。

2.2 応募者の属性

2013 年度の共催講座の応募者の属性は次の通りである。

1) 男女比率については、2013 年度は男性が 57%、女性が 43%であり、2012 年度の男性 59%、女性 41%に対して変動がなかった。科目別に見ると、サウジアラビア特論や現代環境法等では男性受講者が多く、化粧品の科学や韓国学などでは女性が多い傾向にある。

図 1-1 男女別応募者（LWWC 開講科目全体）（2012 年度、2013 年度）

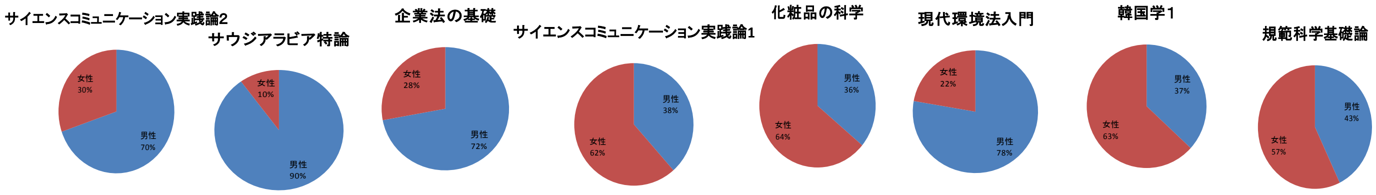

図 1-2 男女別応募者（LWWC 開講各科目）（2013 年度）

2) 年齢構成については、20～50 歳代の現役世代が 2012 年度の 83%に対して、2013 年度は大きく上昇して 97%となった。科目ごとに見ると、サウジアラビア特論や現代環境法入門においては、30～50 歳代の受講者が多く、化粧品の科学においては 20 歳代の受講者も多く見られる。

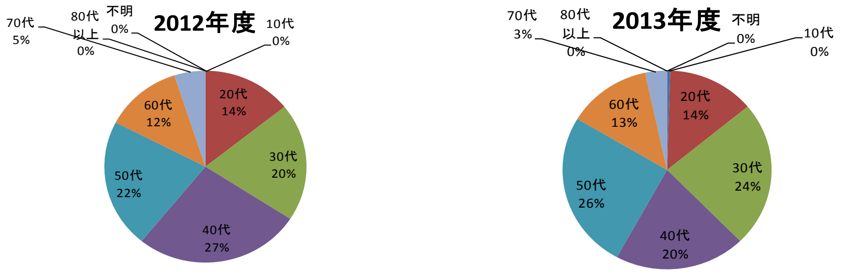

図 2-1 年齢別応募者（LWWC 開講科目全体）（2012 年度、2013 年度）

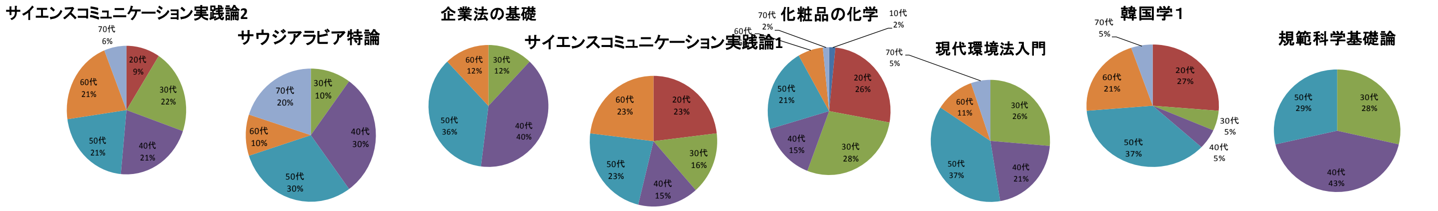

図 2-2　年齢別応募者（LWWC 開講各科目）（2013 年度）

3)　応募者の居住地域については、2013 年度は東京が 62%であり、2012 年度の 60%に対して変動がなかった。科目ごとに多少の変動はあるが、いずれも東京からの参加者が最も多く、これに埼玉県、神奈川県、千葉県がつづく。

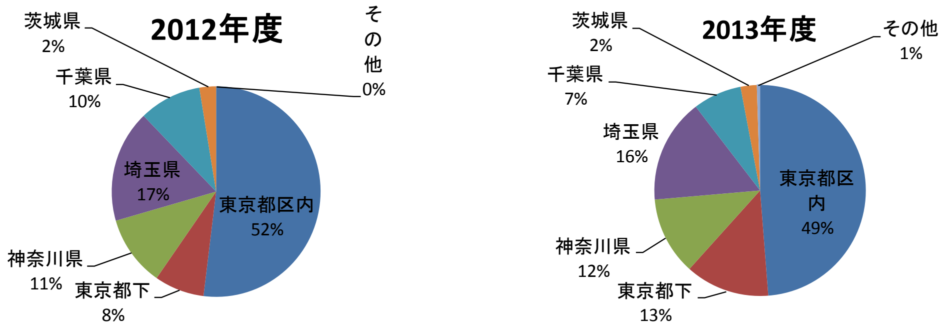

図 3-1　居住地域別応募者（LWWC 開講科目全体）（2012 年度、2013 年度）

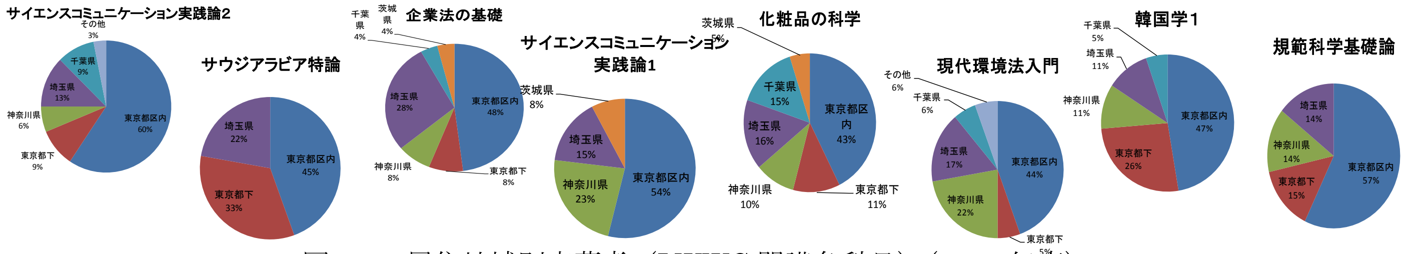

図 3-2　居住地域別応募者（LWWC 開講各科目）（2013 年度）

4)　業種別割合については、2 次産業(製造業)と 3 次産業を合わせて 60%強という傾向は変わらなかったが、2012 年度は三次産業が 36%と最も多かったのに対して、2013 年度は 2 次産業(製造業)が 40%と最も多い。科目ごとに見た場合、いずれも似た傾向であるが、サイエンスコミュニケーション実践論 1 と韓国学 1 において 2 次産業(製造業)の割合が少ない。

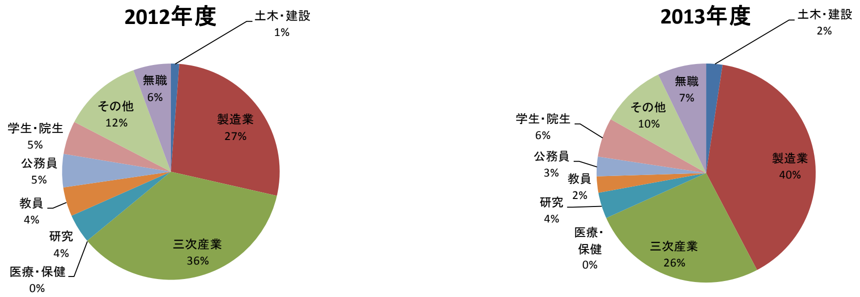

図 4-1　業種別応募者（LWWC 開講科目全体）（2012 年度、2013 年度）

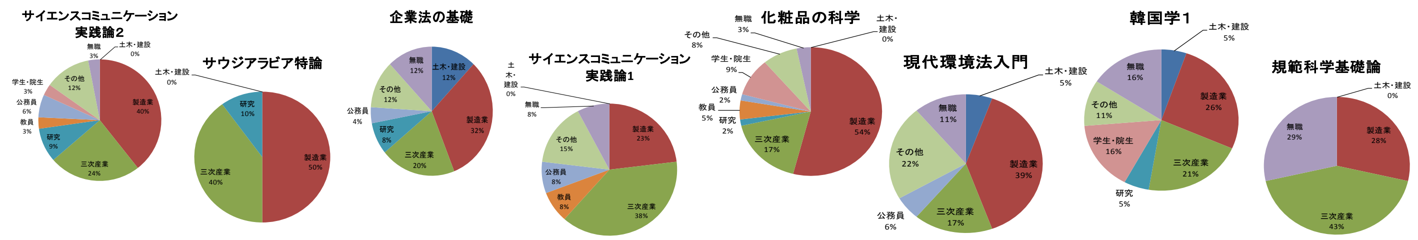

図 4-2　業種別応募者（LWWC 開講各科目）（2013 年度）

5)　継続受講割合については、初めて受講する者の割合が 2012 年度には 55%だったのに対して、2013 年度は 53%と引き続き半数を占め、傾向に変わりはなかった。科目ごとに見ると、企業法の基礎においては初めて受講する者から 8 回以上の受講者までばらつきがあったのに対して、化粧品の科学や韓国学においては初めての受講者が目立った。

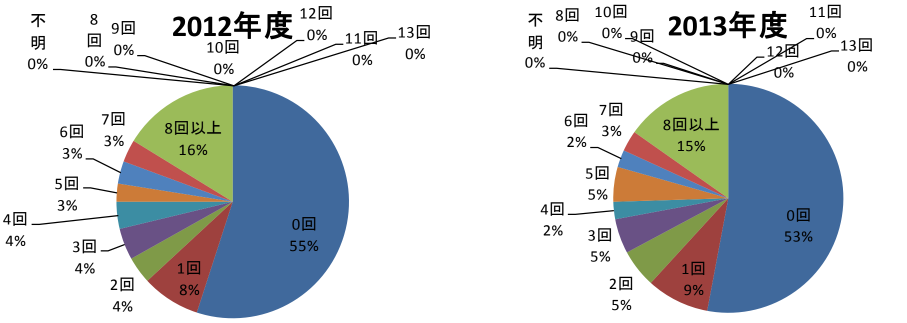

図 5-1 応募者の過去の受講回数（LWWC 開講科目全体）（2012 年度、2013 年度）

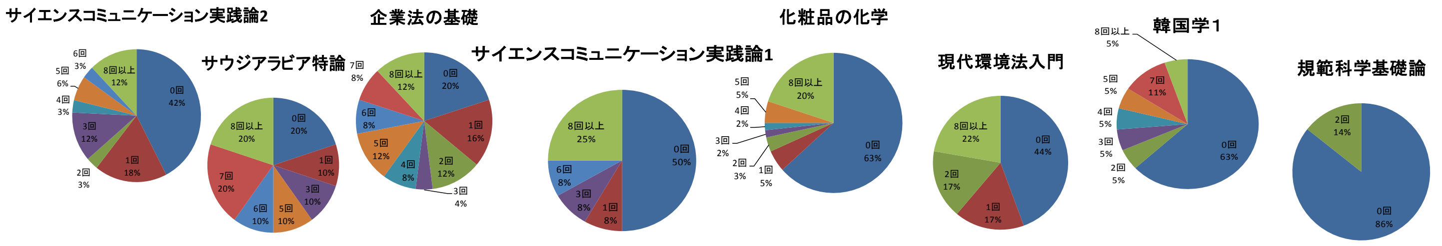

図 5-2　応募者の過去の受講回数（LWWC 開講各科目）（2013 年度）

6)　講座を知った情報源については、2012 年度と同様に 2013 年度もホームページ（HP）やメールといった電子媒体を介したものが多くかつ増加した。上司あるいは教育機関の指示による受講の比率も多く引き続き増加している。科目ごとに見ると、サウジアラビア特論や韓国学では口コミが、化粧品の科学では上司あるいは教育部門の指示が他よりも多い。

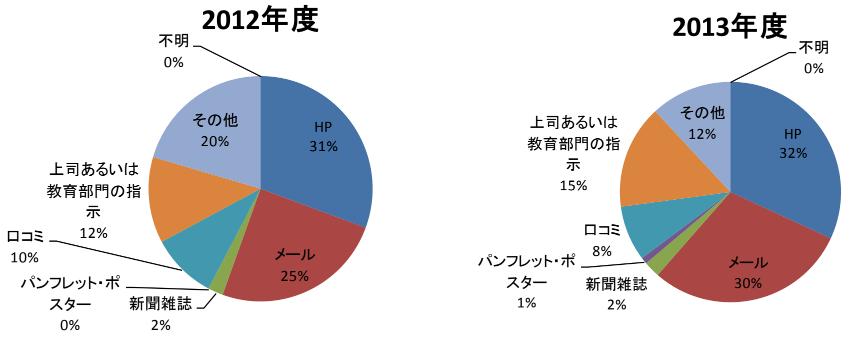

図 6-1　講座を知った情報源（LWWC 開講科目全体）（2012 年度、2013 年度）

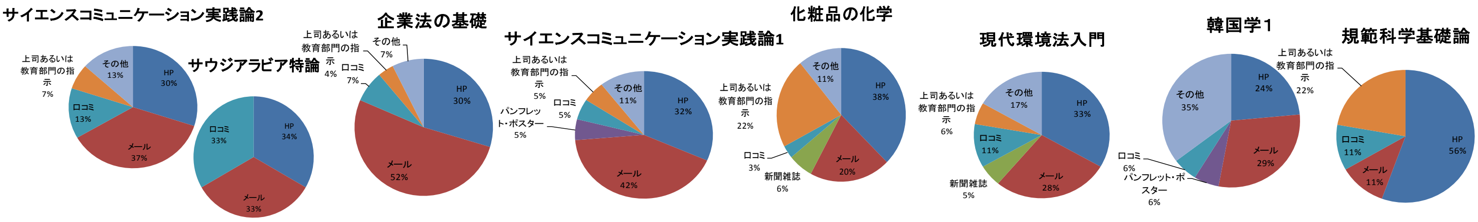

図 6-2　講座を知った情報源（LWWC 開講各科目）（2013 年度）

3．2014 年度の計画

3.1　開講の方針と概要

2014 年度もお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、これまでの基本認識を踏襲しつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築など新規開拓の孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たしていく。

2014 年度に共催講座として開講する科目は 5 科目であり、2 科目が継続科目で 3 科目が新規科目である。また、2014 年度に関連講座として開講する科目は 2 科目である。そのうち 1 科目は知の市場の共催講座で得た知識や経験を活かしたお茶の水女子大学の大学院生を対象とした科目である。加えて、これまで通り、共催講座の科目は履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置づけられるリスク管理(演習)を履修したものとして 2 単位を取得することができる。こうして 2014 年度も構造改革の孵化機能を果たしていくとともに、2014 年度の期中における科目の追加を目指して新規開拓の孵化機能を強化していく。

表２　2014 年度開講科目

区分			科目番号	科目名―副題
共催講座	前期	新規	CT136	規範科学事例研究１―社会の諸々のリスク・マネジメントの実際を検証する
		継続	CT534	サウジアラビア特論―生活の安全保障の視点からサウジアラビア石油の安定供給の日本にとっての意味を考える
	後期	新規	CT137	化学物質総合経営学事例研究１―国際的枠組みと企業の自主管理活動を検証
		継続	CT541	金融特論２―金融におけるリスクとリターンの正体を探る
		新規	CT574	法学入門―実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養
関連講座	通年	学部		リスク管理(演習)
	前期	大学院		化学物質総合管理学

3.2　開講科目の概要と特徴

(1)共催講座

1)CT136 規範科学事例研究１(新規)

社会の諸々のリスク・マネジメントの実際を検証する科目を、化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会を連携機関として、新規に開講する。

2)CT534 サウジアラビア特論

生活の安全保障の視点からサウジアラビアの石油の安定供給の日本にとっての意味を考える科目を、社会技術革新学会石油サウジアラビア教育研究会を連携機関とし、継続科目として開講する。

3)CT137 化学物質総合経営学事例研究１(新規)

リスク管理に係る国際的枠組みと企業の自主管理活動を検証する科目を、化学生物総合管理学会化学物質総合経営学教育研究会を連携機関とし、新規に開講する。

4)CT541 金融特論２

金融におけるリスクとリターンの正体を探る科目を、社会技術革新学会金融教育研究会を連携機関とし、継続科目として開講する。

5)CT574 法学入門(新規)

実践的考察を通じたリーガルマインドの涵養に関する科目を、社会技術革新学会法制教育研究会を連携機関とし、新規に開講する。

(2)関連講座

1)リスク管理(演習)

共催講座の科目(上述の 1)～5)の科目)を受講し現実の社会で働く社会人の中に加わり共に学ぶことによって、社会の現況に対する理解を高めて世界において自らを活かしていくための教養の深化を図る科目として、リベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部の学生を対象に開講する。

2)化学物質総合管理学

化学物質のもたらす健康リスクや環境リスクを付加価値の創造とつなげて論じる科目をお茶の水女子大学大学院の院生を対象に開講する。

4．今後の方針

知の市場の創始者として長年の活動の中で培ってきた経験と信頼を基礎に、新規開拓や構造改革の孵化機能をさらに高めていく。また、2016 年度以降、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室が開講機関として機能を果たし得なくなることが想定されることから、知の市場の直轄による開講などの対応等策を講じて、自立的でかつ自律的な活動としての基盤の確立を図る。